



NO.430

R5年6月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



機にもう一度多くの作品を見直して見ようと思ったくらいでした。

この「出逢い」の経験で改めて思った事は、コロナ禍で仕方がない状況だったとは言え、「愛する我が子」や「愛おしい親」に長きに亘って逢えなかった親御さん、利用者さんのその間の心情でした。色々その気持ちを抑え、代替えとなるような楽しみを企画したりして努力しているつもりではありましたが、ご家族や利用者さんの「逢いたい、けど逢えない」想いは、なかなかそう簡単には埋まるものではないと思いました。例えばリモートでの面会や感染状況が下火になった際の窓越しの面会などは施設としては実施しておらず、まだまだ工夫の余地はあったようにも思います。(各担当レベルでは、携帯電話でのビデオ通話を実施してくれているスタッフもいました。)

まだ完全に収束した訳ではありませんが、これからも親子のお互いに「逢いたい」という気持ちに出来る限り答えられるように、一致協力して知恵を絞っていききたいと思えます。

「愛おしい人に…」

施設長 木下昭二

コロナの分類が2類から5類へと変更になった事を受けて、自粛や行動制限が続いた状況から、少しずつコロナ禍前の状態に近づいていく事が実感出来るようになったとある先日、前々からずっと逢いたいと思っていた人に遂に逢いに行きました。

を聞いたらお笑いの芸人さんを連想されると思いますが、私達の年齢層の人だとオードリーと聞くとOxy Eobun(オードリー・ヘプバーン)の事を思い浮かべる人も少なからずいらっしゃるのではないかと思います。

どこか奥の方には居続けていた人でもあったので、自分の感情としては「若かりし頃の彼女」にでも逢いに行きような感じだったのだと思います。

「その人…」には4月15日〜5月21日まで熊本県立美術館本館で開催されていた写真展で逢う事が出来ました。当日は三の丸の駐車場に車を止め、まだ復興半ばの熊本城から美術館へと続く石段を昇りつめていくと、ワクワクドキドキする気持ちが出てきて、まだ自分にも「こんな気持ち」や「感情」があったんだなあと自身が一番ビックリする状態でもありました。事前のテレビでの開催告知で、オードリー・ヘプバーンの没後30年という事は理解していましたが、普段はあまりにも遠い存在であり、いつもいつも気に留めていた訳ではなく、だけれども心の中の

「その人…」には4月15日〜5月21日まで熊本県立美術館本館で開催されていた写真展で逢う事が出来ました。当日は三の丸の駐車場に車を止め、まだ復興半ばの熊本城から美術館へと続く石段を昇りつめていくと、ワクワクドキドキする気持ちが出てきて、まだ自分にも「こんな気持ち」や「感情」があったんだなあと自身が一番ビックリする状態でもありました。事前のテレビでの開催告知で、オードリー・ヘプバーンの没後30年という事は理解していましたが、普段はあまりにも遠い存在であり、いつもいつも気に留めていた訳ではなく、だけれども心の中の

情と向き合っていくと、非の打ち所のない端正な顔立ちである事は言うまでもなく、そのシヤンと背筋の伸びた後ろ姿でさえもスキがなく、その人生の足跡に一点の曇りすらなかったかのように感じられ、一瞬のうちには彼女の魅力ある世界に引き込まれていました。その写真はどれも可愛らしく、華やかで、しかも愛嬌があり、時に愛おしく、狂おしいほどキュートで、また時には凛とした視線に釘付けにされるほどの姿で、見る者を魅了させてくれました…。と彼女に對する熱い想いを書くと、いかにもずっと以前からファンだった…かのようには伝わるかもしれませんが、正直なところそんな事はなく、これを



6月



1班「勉強の日々」

昨年の9月に入社し、早いもので9か月が経とうとしています。全く畑違いの職種から転職した私は、毎日が勉強で、沢山の情報量を頭で整理しながら奮闘しています。私の所属する1班にも、様々な特性を持たれた利用者さんがいらっしゃいます。初めは私も不安だらけで、それが利用者さんにも伝わるのでしょうか。警戒されて、こちらから話しかけても全く反応がありませんでした。Aさんも初めは接することも難しかったのですが、担当をさせて頂くようになってから、毎日声を掛けて関わり続けることで、Aさんからも接してきてくださるようになり、少しずつですが、コミュニケーションが取れるようになってきました。ただ、まだまだ力不足で、思いを汲み取ることができないことがあるので、先輩スタッフに教わりながら、一人ひとりに合った支援ができるように頑張ります。

支援員 吉田 理江

2班「アイデアひとつで支援が変わる」

支援者にとって想像力や感性はとても大切なスキルになります。何も無いところから生み出す力、既にあるものから新たに変化を加える力、意識しながら発想力や創造力に繋がりますが、なかなか難しいものです。

2班のネット折りでのカゴの配置。机と机の間にあり、たびたび落ちる為、カゴの下にイスを置くことで転落防止に繋げておりました。しかし、足が伸ばせない、掃除がしづらい、配置を戻す手間という点が課題。先日、先輩の杉本支援員が机と机の間に網状の針金の物（メッシュパネル）を置き、キーリングとチェーンで繋ぐというアイデアで、見事課題が解決しました。

一見簡単そうに見えますが、全くアイデアが浮かばなかった私にとって非常に関心しました。チームワーク、十人十色、適材適所長所や短所という言葉が、いかに充実した日々の生活に繋がるかと再確認できる日になりました。

支援員 麻生聡一郎

チャリティボーリング



3班「勉強することの大切さ」

1月末に国家試験がありました。合否の発表があるまで、毎日ドキドキしていました。結果は見事合格。初めて国家資格を取得することができました。この国家資格を取得するにあたり、座学は勿論、技術的な試験も受けました。技術面の勉強を通して、正しい衣類の着脱、喀痰吸引、車いすの押し方など、利用者さんに快適な介助ができるようになったと感じています。座学では、福祉の成り立ち、法律や福祉サービスに関すること、心身を観察することの重要性などがありました。なかでも、先生が言われていた「利用者や患者の尊厳を重視し、介護サービスを展開すること」は特に印象に残っています。技術も、勉学も大切ですが、一番大切なのは「他者を思う気持ち・心」だと、資格を通じ改めて学ぶことができました。この学びを利用者さんの支援に活かしていきたいです。

支援員 早瀬 寛



4班「給料外出」

みなさんが毎月楽しみにされている給料外出は、マイクロバスに乗って行くことが多いのですが、先日の給料外出は、さわやかな風と陽気に誘われ、徒歩で近くのコンビニまで行くことになりました。いつもの散歩コースから途中でルートが変わるのですが、目的地は見えているので皆さんに迷いはありません。

黄金色の麦穂が風でそよぎ、歩いている皆さんにも風が届きます。手にしっかりとマイバッグを持ち、さっそうと歩みを進めて行かれます。店内で思い思いのお菓子と飲み物をカゴに入れ(アイスクリームを選んでいる方もいました)お会計も済みました。中身の入ったマイバッグは少々重みが増しています。それでもまたしっかりと手に持ち、いつものお散歩の時とは違う明るい表情で無事に帰り着くことができました。どのお顔も達成感で満ち溢れていました。これからもまた、行きたいところ、楽しいこと、やってみたいこと、安全を心掛けながら全力でサポートしていきたいと思います。

支援員 芹川 久美

5班「いつも通り」

5月8日からコロナウイルスが5類になったことで動きの幅が広がり、給料外出も月2回行けるようになりました。5班では西原村にある「AMEYA」というところに行き苺パフェや雪見パフェ、プリン、ガトーショコラにチーズケーキ等たくさんの種類がある中、皆さん好きな物を一人ひとり選びとても美味しそうに食べられていました。コロナが始まって約4年はとても長く、制限される生活にストレスが溜まっていたと思います。少しずつ制限がなくなり、外に出て買い物ができる喜びに感謝しつつ生活していかなければと思います。5類になったからといって油断はできませんが、レクレーションや行事等、利用者の皆さんと外に出て楽しい思い出を沢山作りたと思います。

支援員 西本 綾子

療育雑記

「強み」

業務課長 本田 誠

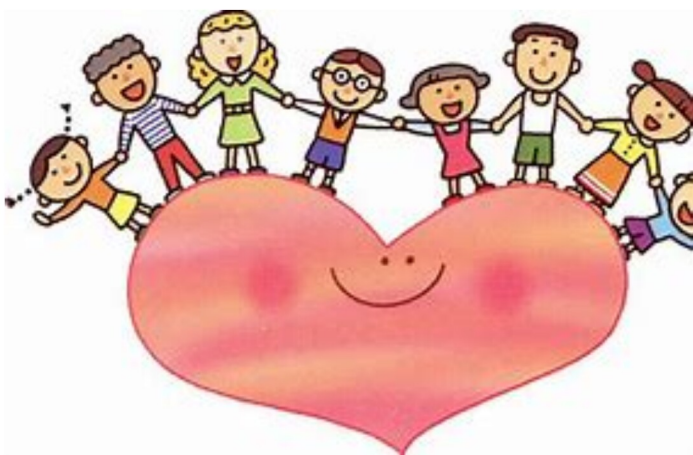
数多く存在する福祉事業所の中で、三気の里の強みは利用者さんひとり一人に対する「想いの強さ」だと感じています。しかし、この想いも一方通行になると利用者さんにとっては迷惑な存在になる可能性があります。そうならない為の一つに、常に自分の支援を振り返ること、加えてバーションアップさせていく事が求められます。つい私達支援者は、利用者さんの成長ばかりに着目し、自分自身と向き合うことを忘れがちです。また、自分自身を評価することは難しく、他者からの評価を経て自分の現在地を実感することが殆どです。他力もモチベーション維持には重要ですが、自分自身で成長を感じることが自信と意欲を得ることができません。その為には、先ず自分の現状を知ること、そして具体的な目標を立てることが必要です。

先日、人権擁護委員会の内部研修会にてスタッフに次の質問をしました。「あなたにとって大切な人が三気の里を利用すると仮定した際、担任になってもらいたいスタッフはいますか？その方を選んだ理由を教えてください」。私としては、「該当者はいません」という回答を恐れていたのですが（それも有り）、皆それぞれに考え記入してくれました。回答をその場でホワイトボードに集約し、皆で確認したので、挙がった意見をいくつか紹介したいと思います。「細かいところまで気付いてくれる」「関わりに愛情を感じる」「伝わらない時は違う方法を考えてくれる」「笑顔で接してくれる」「できることを増やしてくれる」「言葉に表せない気持ちを理解してくれる」「関わりが丁寧でわかりやすい」「大切にしてくれる」「部屋を綺麗にしてくれる」「体調不良の時すぐに通院してくれる」など、具体的意見が多く挙がりました。同意見は僅かであり、幅のある回答結果となりました。今回、理由のみの記入であった為、一

人のスタッフの良いところを多角的に見て記入したものか、複数のスタッフの良いところを抽出したものかは不明ですが、どの内容も私達支援者に当然求められる内容です。しかし、いざ「何項目実践できていますか？」と尋ねると皆不安そうな表情を浮かべていました。挙がった意見と自分自身の現状を照らし合わせると結果に悲観してしまいそうですが、現状を自分の現在値と捉え1つクリアできたら2つ目を、2つクリアできたら3つ目を…といった感じで、今後の具体的な目標として設定し、取り組み評価していくことで自分の成長を実感すると共に、三気の里の支援もより良くなると感じました。

最後に、今回挙がった意見は全て肯定的な内容であり、「〇〇しないから」などの消極的な意見は存在しませんでした。最近、教育や医療及び福祉の現場において、人権問題が大きく取り上げられるケースが増えています。サービスの受け手側を守ることは大前提ですが、サービスを提供する側が委縮してしま

い消極的なサービスの提供ばかりに陥ることは避けるべきであり、受け手側も望んでいないと思います。サービス本来の姿は、喜びを提供すること、人生を豊かにすることなど、相手を想った肯定的な内容が組み込まなければなりません。今後も人権問題と向き合いながら、三気の里の強みである「想い」をサービスとして届け、スタッフ間においても丁寧に継承していきたいと思えます。



部長便り

「セロリ」

部長 松本慎太郎

熊本で育った者としては、東京のエスカレーターは片側は停まって乗る人が乗って、片側は歩く人が乗るといふルールにとっても困惑させられました。エスカレーターは歩いていいのだと学びました。

田舎で育った者としては、村の中学から、町の高校に進学した際、先生にタメ口で話している同級生を見て度肝を抜かれました。先生にタメ口で話しているのだと学びました。

良いか悪いかは別として、その人の考えや行動は、取り巻く様々な環境から学び、現していることが多分にあると思います。三気の里では、勉強する、あいさつができる、感謝や思いやりを行動で表せるなど、職員としての求める人物像がたくさんあります。働く者は、職場の風土に染まります。管理する者としては、求める人物像になってもらうために、施設職員としての専門性や人としてのマナーを高めつつ、親しき仲にも礼儀を持つことを率先して垂範する必要があります。

があります。部下がどう染まっていけるかは、私たちが上司に掛かっています。

相談事業所

「リスタート」

相談支援専門員

立花 訓子

非常事態宣言が出された二〇二〇年4月に私は三気の里に入職しました。それ以降は皆さまもご存じのとおり、行事の縮小や帰宅の中止など自粛と我慢の連続でした。慣れとは怖いもので、いつの間にか様々な不自由さを受け入れていました。

私事ではありますが、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症と移行された後、娘が結婚式を挙げました。直前まで新型コロナウイルスの感染状況を心配していましたが杞憂に終わりホッとしたところでした。マスクに慣れてしまっただけで外すことを少々ためらってしまいました。やはり笑顔で喜び合う光景は良いものです。今後は三気の里でもコロナの感染者数に合わせて、制限が変化していくことでしょうか。一度中止してしまっただけを再度復活するには情熱とパワーが必要で

すが、感動や喜びを分かち合うことは利用者の方々はもちろん私たち支援者にも必要だと思えます。制限の無い三気の里の行事への初参加と大勢の方の笑顔にお会いできる日を今から心待ちにしています。

ご便り

「はじめの朝」

世話人 岩下 恵子

私の仕事は、朝食作りから始まります。そこで、YさんとYさんと一緒に朝食の準備をしています。まず欠かさないことは、最初に食堂に入ってくるYさんとの挨拶です。私が「おはようございます。お元気ですか？」と尋ねるとYさんも「おはようございます。元気です。」と応えて下さいます。これだけの会話ですが、その時の調子を知るバロメーターになっており、私にとつての貴重な時間です。

Yさんは箸並べから始まり、お茶の準備、みそ汁やご飯の配膳をされています。1年前に入った私との関係で最初は、少し慣れない事もありましたが、今ではこの配膳の時間をゆっくり静かに行動されています。

を忘れると、素早く持ってきて頂き、とても助かります。Yさんもふりかけや小鉢の配膳を、誰に持って行くかを確認しながら、その方の席に置かれています。それが終わると、朝食の始まりです。これからも利用者さんが毎朝、元気に出勤できるように雰囲気作りをしていきたいと思えます。



6月スケジュール

2日(金)創作クラブ
 4日(日)かたつ研修(～6日)
 8日(木)健康診断
 9日(金)芸術クラブ
 13日(火)意見苦情報告会
 15日(木)囑託医来診
 16日(金)ゴールドクラブ・アンパの日・
 三気の会評議員会・理事会
 20日(火)田中Dr.ケースカンファレンス
 21日(水)1班レクレーション
 22日(木)6月誕生会

27日(火)三気マーケット
 30日(金)スタート会
 19日(月)～30日(金)利用者作品展示会
 (場所…大津町役場)
 毎週月曜日 訪問理容サービス
 毎週火曜日 BeTREE役場販売
 BeTREE
 <営業時間>
 8:00～18:00 betree314



イベント食

「イベント和食」

支援員 菅原 恵太

今回のイベント食では、和食を楽しんでもらう為にうどんかそばを選んでいただき、トッピングを肉かきつね、エビ天ぷらかかき揚げを選んでもらっています。そしてミニ親子丼、ポテトサラダ、デザートに抹茶プリンかあんみつどちらかを選んで食べて頂きました。また、おやつにミスタードーナツのドーナツとリンゴジュースを提供し、皆さん美味しくそうに食べられています。



【寄付】

有馬 幸雄様
 三気の里家族会様

【物品】

井上 律子様 赤星 央子様
 牛島 智子様 森川 琇介様
 上野 育夫様 木下 祐一様
 満塩 武臣様 小牧 博則様
 白井 桂子様 福永 敬子様
 中嶋 久枝様

【後援会ありがとうございます】

木下 祐一様 森裕 三様
 山下 広幸様 井上 優様
 吉田 憲司様 大畠 照雄様
 井上 律子様 財津 睦人様
 牧野 慎也様 中原 喜徳様
 白井 桂子様 渡邊 正司様
 日置 政宏様 森川 マサミ様
 櫻木 勇夫様 田中 健二郎様
 前田 恭男様 東坂 富士代様
 福島 循環器内科医院 福島 敬祐様
 (有) 西日本防災システム様

【VO】

ブラッシング指導 前淵 隆子様

沢山のご厚意

ありがとう

ございます